

蔵王山の火山活動解説資料（平成31年4月）

仙 台 管 区 気 象 台
地 域 火 山 監 視 ・ 警 報 セ ン タ ー

火山活動に特段の変化はありませんでした。

蔵王山では、2013年以降、時々、火山性地震や火山性微動が発生し、地殻変動がみられるなど、火山活動が高まることがありますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1、図2-①）

監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図2-②③、図3）

火山性地震及び火山性微動は観測されませんでした。

2013年以降、御釜の東側から南東側の深さ20～30km付近を震源とする深部低周波地震が増加し、やや多い状態で経過しています。

・地殻変動の状況（図2-④、図4、図6）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（令和元年5月分）は令和元年6月10日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警戒等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

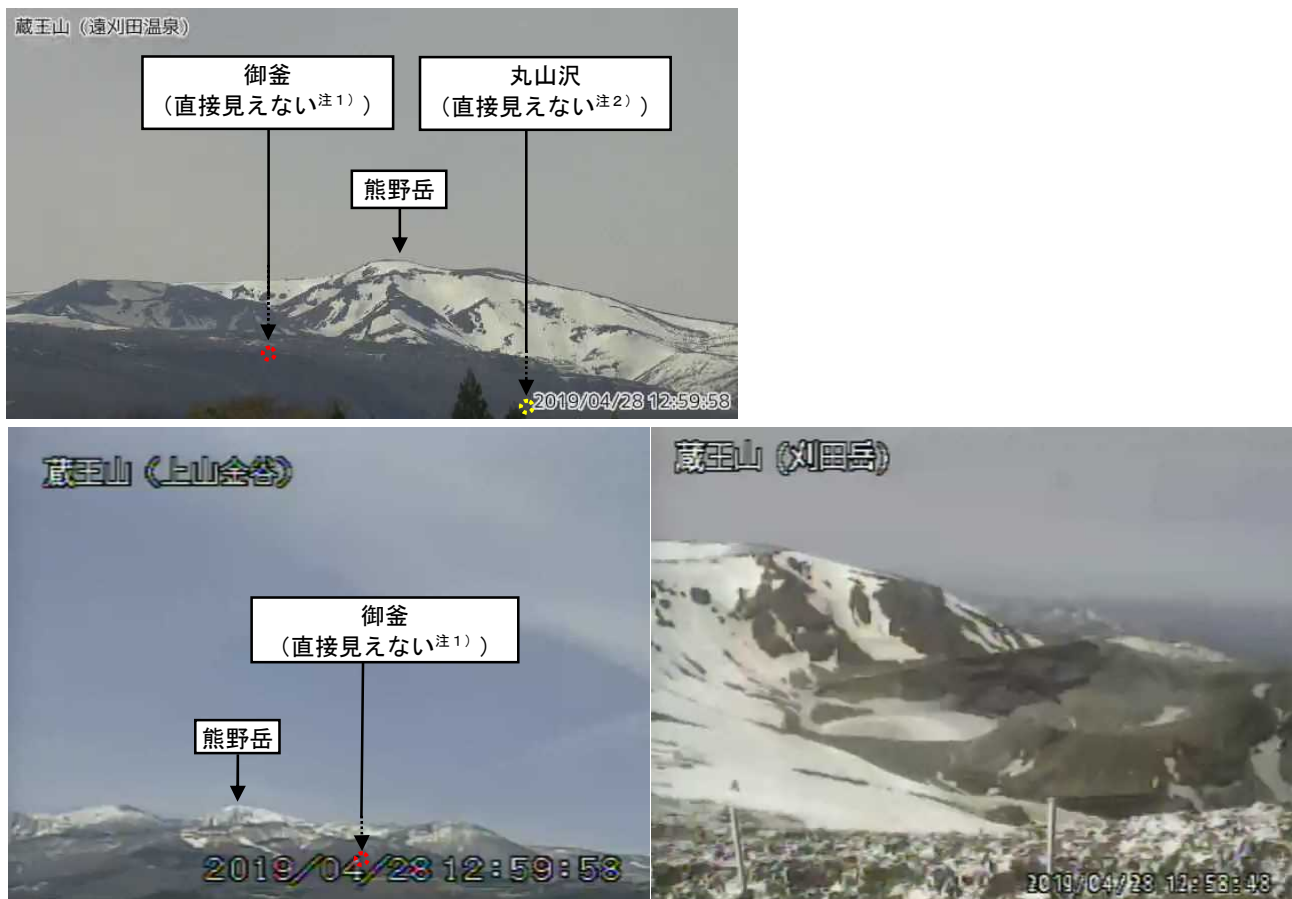


図1 蔵王山 山頂部の状況（4月28日）

- ・ 上図：遠刈田温泉監視カメラ（山頂の東約13km）の映像です。
- ・ 左下図：上山金谷監視カメラ（山頂の西約13km）の映像です。
- ・ 右下図：刈田岳監視カメラ（御釜の南約800m）の映像です。

注1）御釜から噴気が噴出した場合、遠刈田温泉及び上山金谷では高さ200m以上のときに観測されます。
赤破線が御釜の位置を示します。

注2）丸山沢からの噴気は、高さ100m以上のときに遠刈田温泉監視カメラで観測されます。
黄破線が丸山沢の位置を示します。

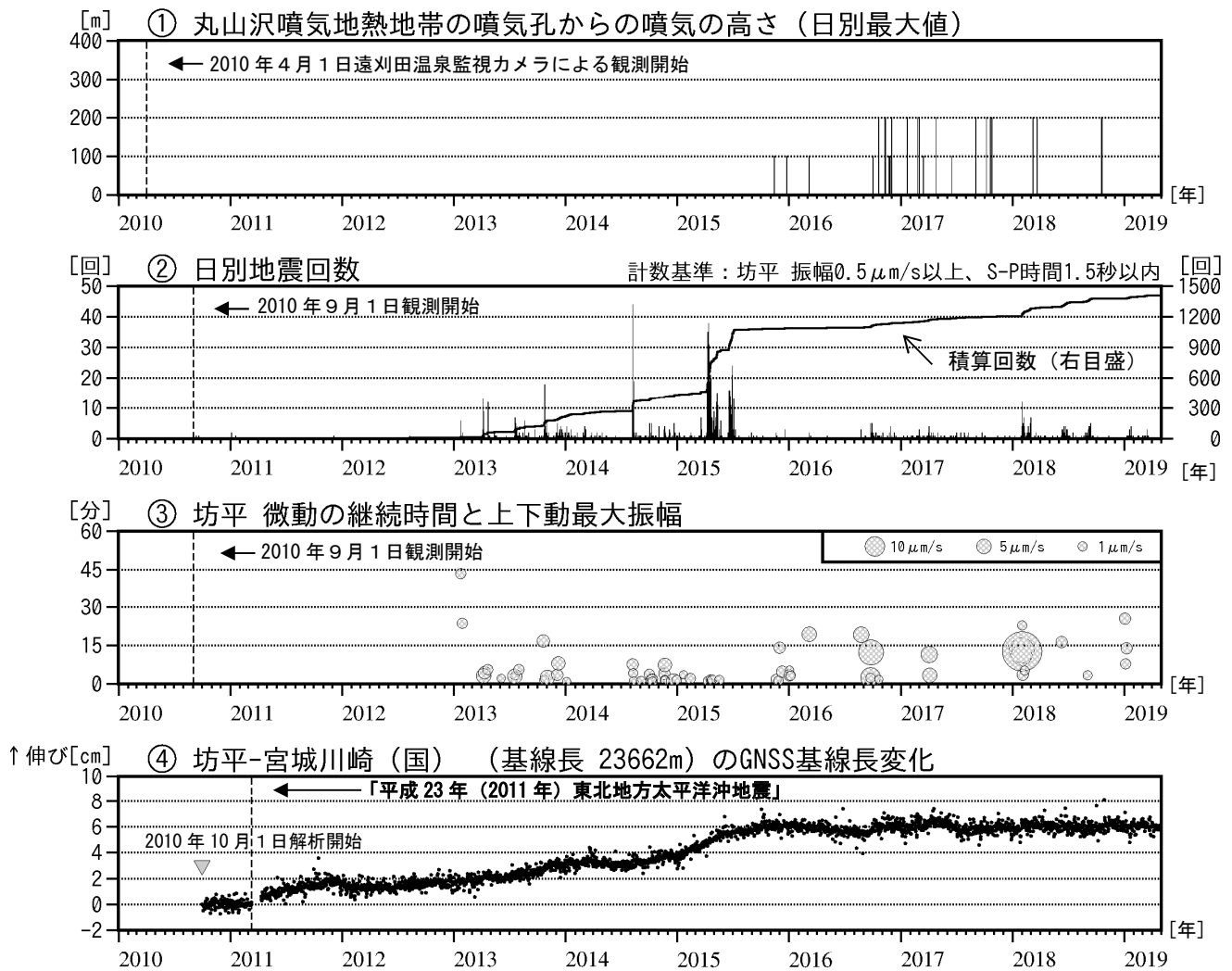


図 2 蔵王山 火山活動経過図（2010年4月～2019年4月）

- ・ ①遠刈田温泉（山頂の東約13km）に設置されている監視カメラによる観測です。
- ・ ④は図 6 のGNSS基線①に対応しています。
- ・ ④「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。

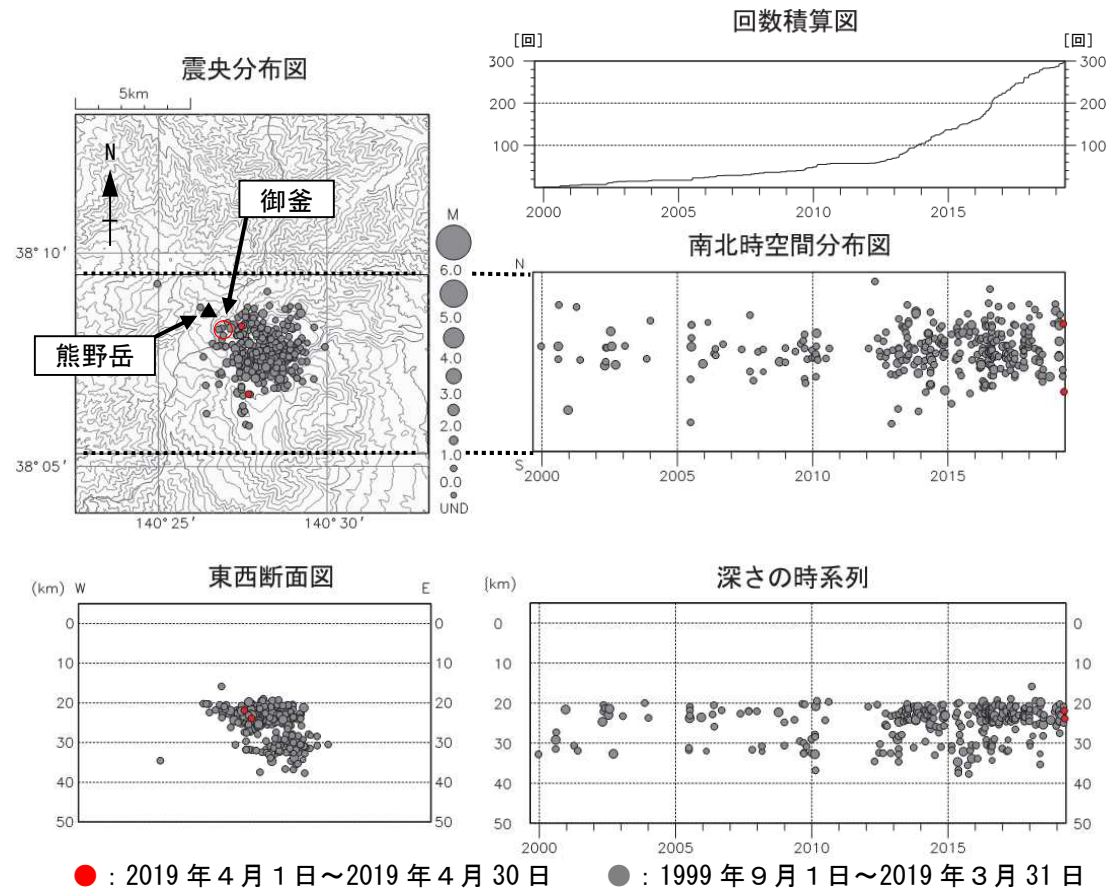


図 3 蔵王山 広域地震観測網による深部低周波地震活動（1999 年 9 月～2019 年 4 月）

・ 2013 年以降、深部低周波地震（特に深さ 20～30km 付近の地震）が増加し、やや多い状態で経過しています。

注）2001 年 10 月以降、検知能力が向上しています。

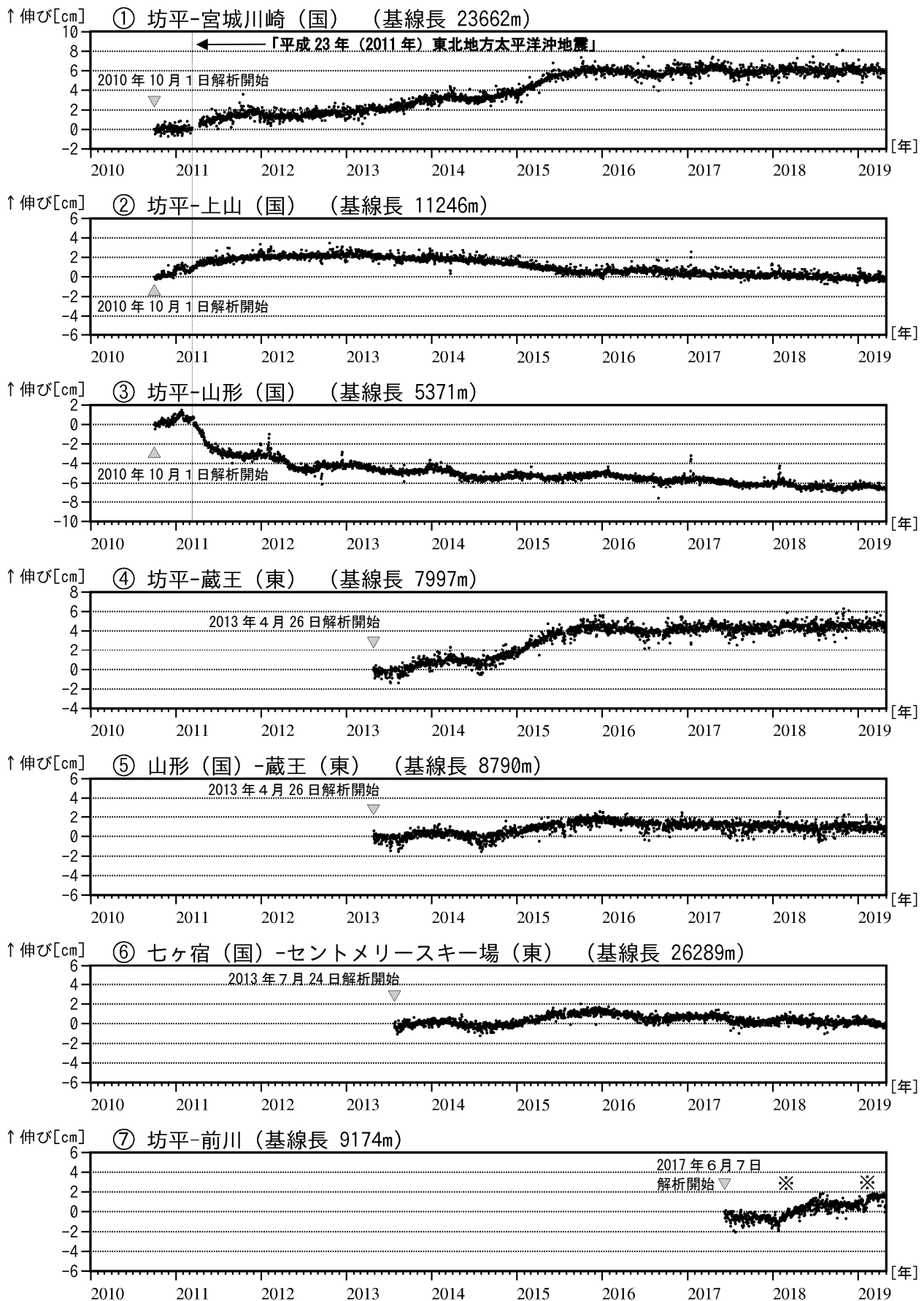


図 4 蔵王山 GNSS 基線長変化図 (2010 年 10 月～2019 年 4 月)

- ・「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
 - ・①～⑦は図 6 の GNSS 基線①～⑦に対応しています。
 - ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
 - ・(国)は国土地理院、(東)は東北大学の観測点を示します。
- ※前川観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。

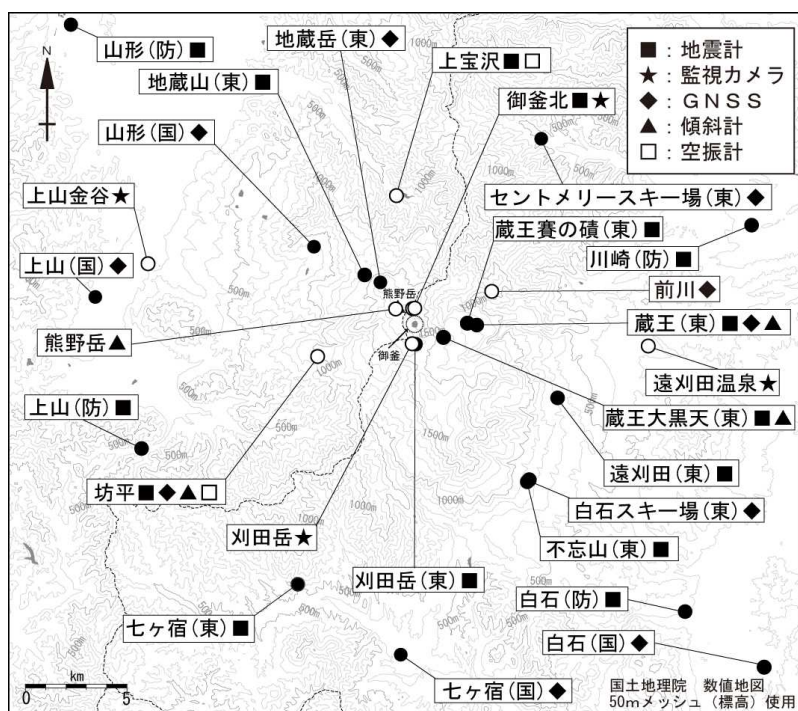


図5 蔵王山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国) : 国土地理院 (東) : 東北大学 (防) : 防災科学技術研究所

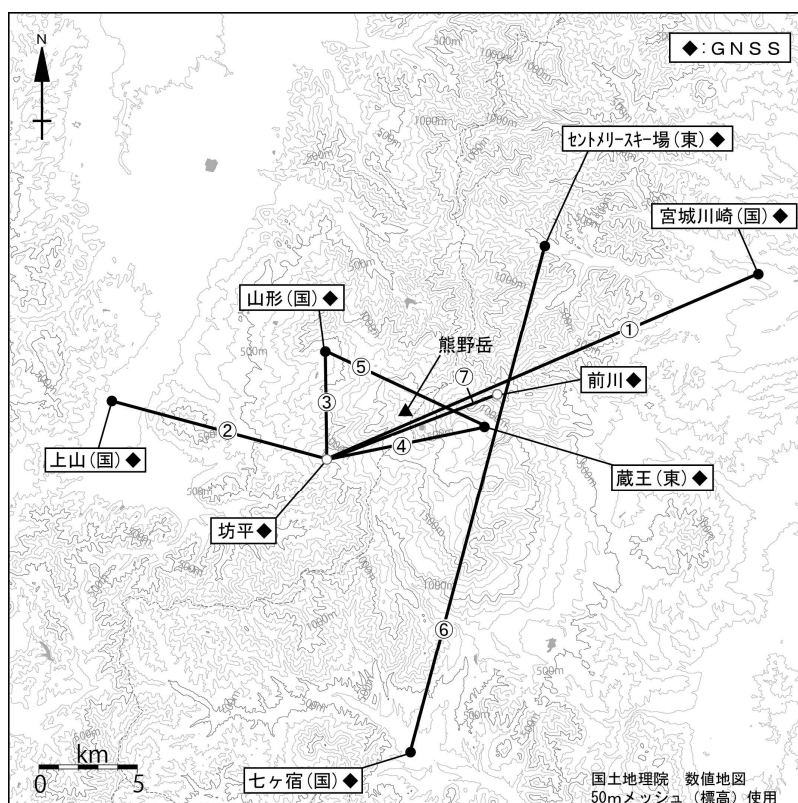


図6 蔵王山 GNSS観測基線図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国) : 国土地理院 (東) : 東北大学